

## 平成 24 年度 博士前期課程学位論文要旨

## 学位論文題名

急性心筋梗塞発症後の外来受診を継続している中年期患者における再発予防行動

学位の種類： 修士（看護学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 11894609

氏名： 山下美佳

（指導教員名： 河原加代子 教授）

**目的:**急性心筋梗塞発症後の外来受診を継続している中年期患者が、再発を予防するための行動と、行動を計画する上で活用している情報、そして自分の生活スタイルにあわせた方法や程度をコントロールするための判断について明らかにすることを目的とした。

**方法:**質的記述的研究デザインである。対象者は、30歳から50歳代で急性心筋梗塞を発症後、1年程度循環器科に通院している患者17名とした。インタビューガイドを用いた半構成的面接調査を行い、質的に分析した。

**結果:**

- 1) 対象者は17名（男性16名、女性1名）であった。発症時の平均年齢は45.1歳で、面接時点の経過年数は平均1年3ヶ月であった。合併症を有する患者は約半数であった。その他の患者にも、夜勤など生活が不規則になりやすい就業背景があった。
- 2) 再発を予防するための行動には、〔自由な飲食を見直す行動〕など3個のカテゴリー、活用している情報には〔治療の継続に向けて入院中に提供された医療者からの情報〕など3個のカテゴリーが抽出された。自分の生活スタイルにあわせた方法や程度をコントロールするための判断として、2個のカテゴリーが抽出された。〔再発予防行動の実行に直接関わる判断〕は、《食事療法を実施する程度に関する判断》、《運動の実施に関する判断》など5個のサブカテゴリーで構成され、〔再発予防行動の実行に間接的に関わる判断〕は、《心筋梗塞の再発予防に関する判断》、《生活を変容することに関する判断》など4個のサブカテゴリーで構成された。環境要因としては〔就業環境〕と〔家庭環境〕の2個のカテゴリー、その他個人的な背景が抽出された。

**考察:**急性心筋梗塞発症後の外来受診を継続している中年期患者が、再発を予防するために実行している行動は、医療者からの指示を守って内服治療を継続し、摂取カロリーを控えて都合のつく日には運動するなど、治療後の状態を積極的に維持していこうとする行動であった。また、職場復帰後に食事療法や運動療法を継続するための情報は不足していくため、患者は医療者から得た情報を自分の体験で補いながら再発予防行動を計画し、自分の生活スタイルに合うように実行の方法や程度をコントロールしていることが明らかになった。しかし、再発予防行動を実行する際には困難や葛藤があり、患者の判断は職場や家庭環境に影響を受けること、治療後の回復を自覚することが難しいという現状があることは、今後の課題である。

**結論:**退院後の時間経過に伴って、患者には職場や家庭での生活状況に即した具体的な情報が不足していくため、患者の判断を理解し共感しながら、再発予防行動を修正できるような支援が重要である。